

旅途隨筆

中日文对照抒情诗集

旅の思ひ

張子揚 著 趙克 译

張子揚 著 趙克 訳

◆ 漓江出版社

旅途隨筆

張子揚 著
趙克 譯

中日文對照抒情詩集

旅の思ひ

張子揚 著
趙克 譯

图书在版编目(CIP)数据

旅途随笔·中日文对照抒情诗集 / 张子扬著; 赵克译. 桂林: 漓江出版社, 2008.4

ISBN 978-7-5407-4129-7

I. 旅… II. ①张…②赵… III. 抒情诗—作品集—中国—当代—汉、日 IV. I227.2

中国版本图书馆CIP数据核字(2008)第024745号

旅途随笔·中日文对照抒情诗集

LuTu SuiBi · ZhongRiWen DuiZhao ShuQing Shi Ji

作 者	张子扬	译 者	赵 克
责任编辑	赵 涛		
美术编辑	石绍康		
责任校对	秦 灵		
责任监印	黎福芝	杨 东	

出 版 人 李元君
出版发行 漓江出版社
社 址 广西桂林市安新南区356号
邮 编 541002
发行电话 0773-3896171 010-85893190
传 真 0773-3896172 010-85800274
邮购热线 0773-3896171
电子信箱 ljchs@163.com

<http://www.ljjiang-pub.com>

印 制 广西民族印刷厂
开 本 890×1240 1/36

印 张 $4\frac{2}{9}$

字 数 80千字
版 次 2008年4月第1版
印 次 2008年4月第1次印刷
印 数 1—1500册
书 号 ISBN 978-7-5407-4129-7
定 价 20.00元

漓江版图书: 版权所有, 侵权必究

漓江版图书: 如有印装质量问题, 可随时与工厂调换

張子揚

中国作家协会会员。出版的中文诗集有：《提灯女神》、《半敞的门》、《峡谷无言》、《翻山看海》、《晨别巴黎》、《雕刻时光》、中英文版《朝圣者日记》、中德文版《告别柏林》、中法文版《张子扬诗选》、中日文版《旅途随笔》等。

现供职于CCTV·中国中央电视台。



張 子揚（ちよう しよう）

中国作家协会会员。出版された中国語詩集に「提燈女神」、「半開きのドア」、「無言の幽谷」、「山を越えて海を眺める」、「朝、パリに別れを」、「彫刻タイム」あり。その他、中国語・英語詩集「巡礼者日記」、中国語・フランス語詩集、中国語・ドイツ語詩集「ベルリンに別れを」、「張子揚詩歌選集」、中国語・日本語詩集「旅の思い」など多数。

現在、CCTV・中国中央テレビ局勤務。

序 言

张子扬先生在电视传媒界有非常突出的工作成就，二十年来，为了沟通世界走遍了五大洲。他曾编辑出版过一本微型的世界地图，我得到之后十分珍爱，向许多出外旅游的朋友推介，都认为能够给他们到各国旅行带来很大的方便。想必他本人在许多国家的政治文化中心和旅游胜地都留下了自己的足迹。正如他在诗中所写：“心迹所到之处/一定比足迹所到/更为遥远与辽阔。”我们现在不难从他的这本《旅途随笔》诗集中感受到这一点。

他的这本诗集，不是导游地图和旅游指南，而是他的爱心在世界遨游留下的记录，大致是由近及远，遍及东南西北，从过去现在走向未来，在有限的篇幅之中，包含了丰富的内容。我以为特别值得注意的是在旅途不断回望故土家园，时时系念家乡亲人，置身于外面的世界，往往被异国风情触动着心中的至爱深情，这就是所谓心迹的写照。如《挪威·海湾山路遐

想》：“海有多大/天就有多远——/天那边看得见一泓玉渊潭水吗/若有，我心爱的姑娘便在湖上/划着小船。”《时差》：“我在太阳下沉睡/你在月亮下醒着/但愿你在噩梦中能见到一个/清晰的我。”《游子吟》讲述中国人在开放的年代走向漫长的旅途，却怀着难以化解的对于故乡和亲人的挚爱：“不远游 如何有归心的箭急急地飞驰/不远游 如何有回首的泪徐徐地洒滴/不远游 如何知道情系何方恋在何处/每一次远游之前/我都把这颗思念的心完整地寄存给你。”

现在的中国人生活在一个国际化的时代，他们正在把自己的足迹印到世界的各个角落。他们从不同国家的文化传统中吸取养分，使自己的眼光变得更阔大、更高远。他们也因而更加向往建设一个各国人民相亲相爱的和谐世界。无论走到哪里，他们的爱国情怀都能酿造出感人的诗情，他们的心迹确实比足迹更为遥远。作者写得不错，我们“翻阅这部思念的诗集/页页都闪爍/明亮与温暖”。

子扬的诗作已经有了多种外语版本。这次由赵克先生担任翻译，出版中日文版合集，使子扬的诗情进

入东方日本广阔的天地。赵克先生是我们对外友好界的积极分子，活跃在中日文化交流的领域中。诚如赵克先生所说，子扬的诗在隽永含蓄的风格上与日本诗歌很接近，能够在日本友人中引发共鸣。赵克先生的翻译劳作也令朋友们感激。我认为这本中日文版的诗集出版，是新世纪中日文化交流中的一项宝贵收获。谨向子扬、赵克先生表示敬意和祝贺。

中国人民对外友好协会会长

陳昊蘇

2008年1月31日

まえがき

張子揚氏はメディア業界で極めて優れた業績をあげた方である。二十年来、世界各国と交流を深めるために世界中を歩いて来た。以前、氏はポケットサイズの世界地図を編集したことがある。それを頂いて重宝しているだけでなく、よく世界を歩き回る多くの友人にも薦めたりしている。友人の面々もそれが世界各国を旅行するのに大いに役立つものだと認識している。それは子揚氏本人が五大洲の国々の政治と文化の中心地や観光名所に足跡を残して来たからだと思われる。正に詩に書かれた通りである。「心の辿り着いた／ところは／きっと、残して来た足跡よりも／果てしなくて、遠くて広いだろう……。」この「旅の思い」という詩集からそれを身に沁みて感じるができるのだろう。

氏のこの詩集は観光地図でもガイドブックでもなく、氏の愛の心が世界中を漫遊した記録であ

る。おおむね遠くから近くへ、地球の東西南北の隅々までに及んでいる。過去から未来に向かって限られた紙幅に豊かな内容を含んでいる。特に注目すべきなのは旅先から頻りに祖国や郷里を振り返り、常に古里にいる家族を思うところである。外の世界に身を置きながら往々にして胸の中の真摯な愛情を呼び起こしがちである。それが胸の内の描写である。例えば、「ノルウェー・海沿いの山道にて」では、「海がどれだけ広いか／空はどれだけ遠いかと、人は言う／遙か遠い空よ／玉淵潭の湖水が見えるだろうか／あの湖で／ボートを漕いでいる愛しいあの子が」と吟唱する。それから、「時差」では、「僕は昇ってきた朝日の下で／ぐっすりと眠っている／君はお月様の見守るなかで／目が覚める／どうか夢の中では／はっきりとした僕の姿を／見ていてほしい」と詠んでいる。そのほか、「遊子吟」では中国人が開放された新しい時代において長い旅路に着いた時でさえ、片時も忘れない古里と家族への真摯な愛情を胸に秘めている。「遠くへ行かなければ／どうして帰心の矢が／急いで飛ぶことがあ

ろうか／遠くへ行かなければ／どうして振り向く
時の涙が／徐々に零れることがあろうか／遠くへ
行かなければ／どうして思いがどこに繋がり、恋が
どこに落ちるかは／分かることができようか／遠
くへ旅立つ前に／僕はいつもこの思いの心を／丸
ごと君に預けておく」と。

今日の中国人はグローバル化時代に生き、地球
の隅々までに自らの足跡を残しつつあり、さまざま
な国の文化や伝統から十分な養分を吸収し、自らの
視野をより遠くてより高くして行くのである。だか
らこそ、世界各国の人々でお互いに思いやりのある
和やかな大きな家族を築いていくことに憧れてい
る。どこへ行くのであろうと、旅に出ている中国人
たちの持っている国を愛する思いが感動的な詩情
を醸し出すことができる。どこへ行くのであろう
と、心が確かに足跡よりも果てしなくて、遠いよう
に思われる。それも作者の書いた通りである。「こ
の思いの詩集を開き／どのページでも／明るさと
温もりが／きらめいている」。

子揚氏の詩作は既に数々国語に翻訳されている。今回、趙克氏が翻訳して中国語・日本語の対訳版を出版する運びとなった。それが子揚氏の詩情が東の隣国である日本の広い天地に溶け込むことを可能にしたと思われる。趙克氏は我々対外友好界で熱心で積極的な一員である。氏は長期にわたって、中日文化交流分野で活躍している。正に、趙克氏が語られたように、子揚氏の詩における余韻の美しく、含蓄のある特徴が、日本の詩の心に近いので、日本語読者の間にも共感を呼び起こすことができるに違いない。趙克氏の翻訳力作は中日の友人にも深く感謝されている。この詩集の中国語・日本語の対訳版を出版することは、新しい世紀に中日文化交流における貴重かつ有意義な成果だと思われる。これを以って謹んで子揚と趙克両氏に敬意と祝賀の意を表したい。

中国人民对外友好協会会長

陳 昊 蘇

2008年1月31日

C o n t e n t s

目 录

提灯女神

- 旅途漫笔 016
- 挪威·海湾山路遐想 018
- 时 差 020
- 真理之口 022
- 晨别巴黎 024
- 题罗丹艺术馆 026
- 情 人 028
- 说文解字 030
- 记录昨夜 032
- 心 愿 034
- 口 哨 036
- 雨 天 038
- 不敢提笔 (一) 040
- 书 签 042
- 手 记 044
- 不敢提笔 (二) 046
- 奥斯陆雕像 048
- 晨 别 050
- 再赴拉萨 054

目次

提燈女神

旅の思い	017
ノルウェー、海沿いの山道にて	019
時 差	021
ローマ、真実の口	023
朝、パリと別れを	025
ロダン美術館に記す	027
恋 人	029
説文解字	031
昨夜のメモリー	033
願 い	035
口 笛	037
雨の降る日	039
ペンを執る勇氣	041
菜	043
手 記	045
ペンを執る勇氣がない	047
オスロ彫刻	049
朝の別れ	051
ラサへ再び	053

告别西藏	056
松花湖浪木	058
龟裂石	060
初春的运河	062
雪城漫笔	064
银 杏	066
问·唤	068
无 恐	070
梦中，一位诗人说	072
留言电话	074
提灯女神	076
彩笺·帆船	080
涅 槃	082

半敞的门

题 记	086
独 饮	088
千佛山麓	090
茶 罢	092
茶 醉	094
地中海印象	098
初见罗马	100
法国香水	102
比萨斜塔	104
明信片	106

チベットよ、さようなら 057
ながれぎ

松花湖の 浪 木 059

亀裂石 061

初春の運河 063

雪の町雑記 065

銀 杏 067

問い呼びかけ 069

恐れることは何もない 071

夢の中で、詩人が..... 073

留守番電話 075

提燈女神 077

便箋・帆船 081

渥 繁 083

半開きのドア

巻頭の話 087

独 酌 089

千仏山の麓 091

お茶の後 093

お茶酔い 095

地中海イメージ 099

初めてのローマ 101

フランスの香水 103

ピサの斜塔 105

葉 書 107

寄自蓝色海岸	108
塞纳河	110
你寄给我的自白	112
生日卡	114
寻找青春	116
细雨潇湘	118
航空信封	120
蒙古包	120
又见锦江	122
圆通寺	124
游子吟	126
我的北方	128
祈 愿	130
渴 望	132
朋 友	134
译后记	138
译者简介	146

青い海岸より	109
セーヌ川	111
君が寄こしてくれた告白文	113
バースデー・カード	115
青春探し	117
小雨のなかの瀟湘	119
航空便	121
パオ	123
錦江へ再び	125
円通寺	127
遊子吟	129
僕の北国	131
祈り	133
熱望	135
友	137
訳後記	142
訳者略歴	147